

- ☒ 話すこと ☒ 書くこと ☒ 個に応じた教材の作成や指導の充実 ☒ 授業での活用 ☒ 家庭学習での活用
☐ パフォーマンステストでの活用 ☐ 課外活動での活用

実践の
ポイント

「書くこと」を中心とした発信力育成のためのAIの効果的な活用

実証概要

<学校数>10校(中学校:9校 義務教育学校:1校) <人数>2,275人
 <学年>中学校:第1、2、3学年 <アプリ等> スクールAI(株式会社みんなく)
 <AI機能について>
 ・教育に特化した生成AI
 ・学習者のレベルに応じた的確な添削とフィードバックが可能(例 ヒントや修正箇所のみの例示など)
 ・クラス全員の利用状況をリアルタイムで把握できる管理機能有
 ・生徒の実態に応じて、生成AIをカスタマイズ可能

AIの効果的な活用方法や取り組み (AI英語モデル校事業)

●壁打ちの相手として活用

【活用方法、場面】

・英文を作成する際のアイデアを出す場面で活用・友人との会話の前に練習相手として活用

【生徒の様子】AIによるアイデア出しを通して、新たな視点で英文の内容や構成を考えるなど、表現の幅が広がった。

●英作文の推敲場面での活用

【活用方法、場面】

・作成した英文をAIを活用して添削し、正しい英語、自然な英語に変換(AIからのフィードバックをヒントのみとするこ
とも可)

・AIによる添削のポイントを記録することで自身の学習履歴や傾向を把握可能

【生徒の様子】AIからのフィードバックを基に推敲することを通して、「書くこと」の知識及び技能の習得につながった。

●学習の振り返りの場面で活用

【活用方法、場面等】

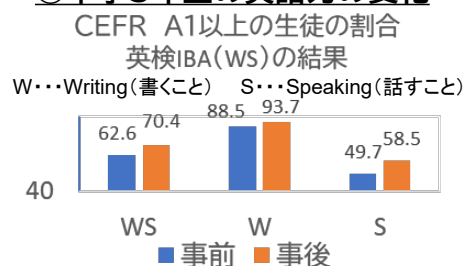
・授業の振り返りにAIを活用することで、生徒一人一人が自身の学びを認識

・教師は生徒の振り返りを集約し、AIによる生徒の理解度や学習の傾向をつかむことで指導改善に活用

【生徒の様子】AIとの個別の振り返りを通して、一人一人が自身の学びを認識するなど、学習への主体性が高まった。

実践成果の検証結果 (AI英語モデル校事業)

①中学3年生の英語力の変化



②児童生徒の関心・意欲の変化

中学3年生の回答結果とその割合 数字は%

設問	事前	事後
英語の勉強は好きか。	53.8	62.1
英語を書くことは得意か。	38.2	40.6
英語の授業の内容は分かるか	78.7	83.3
AIを使った英語学習で、英語で書く力が付いたと思うか。	73.4	74.1

③教師の指導の変化

肯定的な回答の割合が多かった設問とその割合 数字は%

設問	割合
AIを用いたことにより、生徒の発話量・発話時間が増加した。	77.8
個別学習中に気になる生徒により注力して支援を行うことができた。	94.4
生徒がAIを活用している際、生徒の学習の様子を見取り、指導の改善につなげた。	100.0
言語活動の充実に向けて、AIは役立った。	94.4

AI英語活用リーダーの育成や普及に関する取り組み (AI英語活用リーダー事業)

●AI英語活用リーダーへの県担当者のフォローアップと授業公開の実施

【県担当者による年間3回の訪問指導の実施】

県担当者(教育事務所指導主事等)による年間3回の訪問指導を実施

訪問2回目には授業公開、グループ協議、指導・助言を実施

全県で481人が参加 ※全市町村立中学校の教員が参加

【全県への授業公開の実施と報告書の作成】

県内のモデル校10校がAI活用について報告書を作成し、県内の教員限定HPに掲載

【各種研修会での研修講師としてAI活用について普及】

事業全体を通じた成果や課題、今後の取り組み (AI英語モデル校事業・AI英語活用リーダー事業)

●AIを活用した英語授業の在り方について全県で共有

今年度の実践を通じてAIを活用した英語授業の在り方について全県で共有できた。特にAIを効果的に活用するための、教師の授業づくりのポイントやALTの役割等について再認識できた。

また、次年度独自にAIを導入する自治体があることから、県の役割を果たすことができた。

●AI活用も踏まえ自治体間、学校間、教員間の意識差

様々な要因(自治体の財政面や教員の意識面など)によりAI活用状況等に差が生じる可能性があるため、県として継続的な支援が必要と考えている。